

# 紫明の窓

発行：京都鞍馬口医療センター

編集：広報委員会

2017年5月 創刊号



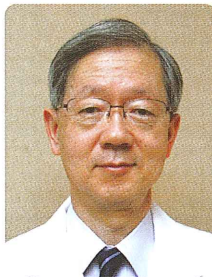
独立行政法人地域医療機能推進機構  
京都鞍馬口医療センター

〒603-8151 京都市北区小山下総町27番地  
TEL 075 (441) 6101代表 FAX 075 (432) 0825  
URL <http://kyoto.jcho.go.jp>

## ごあいさつ

京都鞍馬口医療センター

院長 島崎 千尋



みなさまこんにちは。

平成29年4月1日付けで京都鞍馬口医療センター院長を拝命いたしました。

平成21年に当院に赴任、今年で9年目となります。この間、当院の優れた点や

改善すべき点を多く見て参りました。今後は広い視野に立って病院の発展に努めますのでよろしくお願い申し上げます。

当院は京都市北区唯一の救急指定病院であるとともに、全国57病院から構成される独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO/ジェイコー）の一病院でもあります。

JCHOは「地域医療、地域包括ケアの要として、来たるべき超高齢化社会における地域住民の多様なニーズに応え、地域住民の生活を支える」ことを使命として平成26年に設立されました。当院も地域の皆様に、温かく、良質な医療を、安全に提供することにより、皆様との信頼関係をより深め、JCHOの使命を全うしていきたいと存じます。

今後とも一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。



# ドクター紹介

## 第一回は、白方秀二先生を紹介します。



先生は2009年に綾部市立病院院長を退官された後、当鞍馬口医療センターに就任され現在末梢血管治療センター長を務められています。

前任の綾部市立病院では19年間多忙な院長職と年間200件以上の手術をこなし、在職中長期にわたり連続黒字経営を成し遂げられた腕ドクターとして全国自治体病院協議会から2回にわたり表彰を受けられました。

70歳を超えても生涯一外科医として沢山の手術を執刀し、後輩の指導をされ患者さまからの信頼も厚く、普段はランニングやゴルフ、時にはお酒も楽しめる気さくな先生です。

みなさんは人間の体には静脈と動脈、リンパ管という3つの管があるのはご存じですか？動・静脈疾患はもちろん上肢下肢すべての脈管の病気につき診断治療するのが白方先生が専門とされる末梢血管治療センターです。

2009年4月1日にセンター開設後血管外科手術症例はすでに1000例を超え、最近話題となっている下肢静脈瘤に対するレーザー治療は400例となっています。

診察日は火曜日午前8時半から午後4時迄です。いずれの患者さまも紹介状なしで受付けています。下肢静脈瘤でお悩みの方は是非当院血管外科外来を受診下さい。

# 年男

# 2017年

# 年女



**岡野 晃 (医師)**



2008年4月に勤務してから、約9年になります。彦根城やひこにや

などで知られている滋賀県彦根市に住んでいます。

内科で、おもに血液内科を担当しています。

心機一転し、今までに学んだことを活かして、良い医療を安全に提供できるように頑張りたいと思います。これからもよろしくお願いいたします。

**井上 敬之 (薬剤師)**



当院に勤めて早11年！

薬剤師も専門性を求められる時代であり、感染専門薬剤師として日々精進しています。

地域の感染対策にも貢献できる薬剤師を目指していますので、どうぞ宜しくお願い致します。

**森江 緑 (A7病棟 看護師)**



今まで持病の腰痛・関節痛との戦いでしたが、スタッフの温かいご支援で感謝の毎日です。

最後の一年は、こんな私でも今後この超高齢化社会の中で何か役に立てることはないか、模索の年となります。

**田中 美沙稀 (臨床検査技師)**

私にとって臨床検査技師一年目の年は、目の前の業務をこなすのに精一杯で全く余裕がありませんでした。

昨年は先輩方に助けてもらって毎日でしたが、二年目の今年は自分でできることを増やし、周りを見渡して行動するように努めたいと思います。

そのために何事にも積極的に取り組み、知識を増やせるように日々精進していきます。

患者様の気持ちを一番に考えて検査することを忘れず、臨床検査技師として成長できる一年にしたいです。



〽️ 医院紹介 〽️

医療法人 北村医院

北村医院		循環器科 内科						
診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝	
AM9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	-	
PM5:00~7:30	○	○	○	-	○	-	-	

当院は平成4年に開業し今日に至っています。京都鞍馬口医療センターとは健康保険鞍馬口病院・社会保険京都病院の頃からの長いお付き合いになります。

循環器内科を標榜していますが、開業医の醍醐味で0歳から100歳に至る全年齢層の患者さんを診ています。

私の臨床上の楽しみは、患者さんが診察室に入った瞬間から始まります。

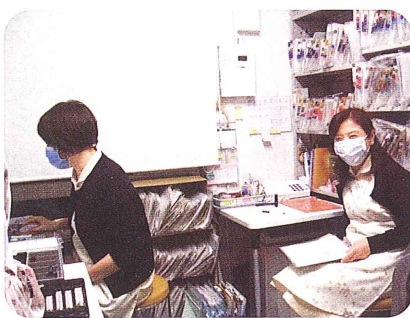
患者さんとの対話・身体所見の評価はもちろんのこと、必要とあらば、心臓循環器超音波検査を始め、頭のとっぺんから足の先まで超音波検査で解るものなら5本の超音波プローブを駆使して第一線の診療を行っております。

疾患も循環器は当然のこと、感染症から悪性腫瘍・認知症と多岐にわたり、医療センターへの紹介も大変多くなっています。

センターの先生方にはいつも快く検査・入院を引き受けて下さり、ご無理を申し上げている次第です。

私達開業医においては、関連病院が絶えず支えて下さっているおかげで、私たちの日常臨床が成り立っており、鞍馬口医療センターの存在が重要となっています。

かかりつけ医と病院との連携を密にし地域医療に励んで参りますので、今後とも北村医院をよろしくお願い致します。



部署紹介

訪問看護ステーションくらまぐち

「理念」

- 1、本人と家族のセルフケア能力を引き出し、できる限り住み慣れた家や地域で安心して生活できるよう支援します。
- 2、心に寄り添い、思いやりのある看護を提供します。

平成8年より、みなし訪問看護を実施してきましたが、10月1日より訪問看護ステーションくらまぐちとして再出発を致しました。

従来と大きく違う点は、24時間対応となったことです。

待機用電話を3名のスタッフで交代に持ち、電話相談に応じ、必要時は訪問看護を実施する体制を取っています。

これにより切れ目のない安心をお届けできるようになりました。

当ステーションは、医療ニーズの高い方、高齢による機能低下や認知症があり在宅生活に不安のある方、終末期を在宅で過ごす方を中心に訪問させて頂いています。

今後は、難病や精神疾患の方、小児にも対象を広げ対応していきたいと思っています。

これからも、ご利用者様、ご家族様に「くらまぐちの訪問看護なら安心」と言っていただけ様、また、関係者の皆様や地域住民の皆様の信頼を得られる様頑張っていきたいと思っております。

管理者 本田 順子



# リレー記事

## 第1回目 健康管理センター

東日本大震災が発生する1ヶ月程前、私はある理由で1ヶ月間程度の入院を余儀なくされておりました。

自由にならない身体と短時間のリハビリ以外にすることもなく、退屈な日々を過ごしておりました。それから、入院して2週間以上が過ぎた頃に外出の許可をもらい退屈しのぎのための本を物色するため近くの本屋へ行きました。その時に目に留まった本が皆さんも御存知かと思いますが有川浩さんの「阪急電車」でした。知っている土地が舞台となっていたこと、映画化が決定していたこともあり世間の話題に付いて行くか、ぐらいいの気持ちで購入しました。それが予想以上に面白く2日ほどで読破してしまいました。学生の頃は頻繁に本を読んだことを懐かしく思い出したものです。そこから有川作品を読み続け半年ほどで全ての作品を読破してしまいました。現在も、好きな作家の作品は全て読破するのを楽しんでいます。

昨今、活字離れの記事を目にすることがよくありますが、私が学生だった30年程前は「趣味は読書です」と答えると、読書は趣味にならないと高校の先生に言われたことを思い出し、今なら胸を張って「趣味は読書です」と言える時代になったのかと思います。

皆さんに「本を読んでいますか」と聞くと、「読む時間がない」、「どんな本を読んでいるかわからない」などの答えが返って来そうですが、読む時間を作ってください。読みたい本は昨今の情報化社会なら自分に合った本や読みたい本は必ず見つかると思います。

私は今も毎月、5冊前後の本を読んでいます。私が、なぜそんなに本を読むのかと聞かれたことがあります。明確な回答は見つかりませんが、読み終わったあとの余韻のために読んでいるように思います。その余韻は、幸せな気持ちになるのか、なんだこの内容はと自問自答するのか、それは読み終わったあとのお楽しみです。

あまり本を読まない皆さんへ、本屋で探すのもよし友達で紹介でもよし、本を読んでみて下さい。必ず自分にプラスになることがあります。



健康管理センター事務員 手塚裕之

# 市民公開講座

## 京都鞍馬口医療センター 第52回 市民公開講座 3月26日に開催いたしました！

当病院は「地域に開かれた病院」、「地域に根ざした病院」としてさらに積極的に皆様と共に健康づくりに取り組んで参りたいと考えております。その一環として市民公開講座を開催しており、おかげさまで第52回目をむかえることができました。



皆様の病気に対する知識が深まり、ご自身の健康を考えていただける良い機会かと思っております。

## 次回予告 第53回 市民公開講座

平成29年6月11日(日)

を予定しております。

担当：内科医師、管理栄養士

## 紫明の窓

### タイトル由来

この病院の北の窓からは紫明通りが見渡せ、四季折々の彩りを楽しませてくれます。

南の窓からは京都タワーと伏見桃山城のパノラマが一望出来、入院患者様にはとても評判です。

風光明媚なこの地で病院職員と病院を訪れる全ての皆さまとの心と体の癒しを育む安らぎの懸け橋(窓口)となるようにと願いを込めたタイトルです。